

【京都橘大学】

学生によるオリジナル手帳の研究開発

木下 達文

● 京都橘大学現代ビジネス学部教授、
地域連携センター長

京都橘大学現代ビジネス学部の都市環境デザイン学科木下ゼミでは、毎年、共同研究プロジェクトを、いわゆるPBL (Project Based Learning) やアクティブラーニング授業の一環として専門演習科目を利用して実施している。当ゼミの特徴は、教員や企業が課題を提示するのではなく、学生が自らテーマを決め研究開発を行う方法を採用していることであり、筆者は「自発型アクティブラーニング」と呼んでいる。というのも、学生の「夢」を形にすることが筆者の役目の一つだと考えているからであり、そこに至るさまざまな課題を解決するノウハウを伝授しているのである。これまでに多様な企画を実施しているが、商品開発的なものとしては、地元の特産品を使ったケーキ「山科ぶどうタルト」の研究開発、大学

名にもなっている「橘」の香りを応用したリップクリーム「香りっぷ」の研究開発などを手がけてきた。

オリジナルの学生手帳「T e c h o b a n a (てちよばな)」は、2016年3月に卒業した学生が、2014・2015年度の2カ年をかけた基礎研究から応用実践というプロセスを経てプロデュースしたものである。研究制作だけでなく、企画・調査・助成金獲得・広報・販売といった一連の活動を通して、ビジネス全体の学びを体験的に修得することが目的であり、座学で勉強したことも小さい形でよいので応用することが求められるからである。

そもそも京都橘大学には学生手帳が存在していないことから、新しいコンセプトによるオリジナル手帳の研究開発を行うことで初めての学生手帳を創出するとともに、利用する人に対して多様な学生生活のサポートを提供するツールを目指して企画開発を行った。おそらく、ゼロベースから開発された大学手帳はこれが最初ではないかと思われる。まず、他大学の学生手帳や一般の手帳の構造、および冊子の編集に関する基礎研究を行いつつ、个性的かつオリジナル性の高い手帳の企画・デザインを、



利用者視点に立って、印刷会社との調整を除くほぼすべての活動を学生自らが行った。基本的にゼミ生を中心に企画・編集・制作を進めていったが、独りよがりにならないよう広く学内全体の意見を盛り込んでいくため、学内において各種のアンケート調査を実施し、手帳に盛り込む情報や表紙デザインを制作する上での参考情報とした。最終的に総数として300名程度の意見を集め、男女や学年、学科別に集約することで、多様な視点を反映した制作物となった。

ゼミ生の意見や在校生の意見を基に、他にない手帳を考えることとなり、最終的に以下のような特徴を打ち出したものとなった。第一に、「手作り感」を感じてもらうために、紙面の多くをあえて「手書き」にしている。特に、最後の方にある地域マップは全て手書きである。第二に、学生や学科

の先生に親しんでもらえるように、学科を代表する教員のイラストと一言コメントを入れている。第三に、表紙を3種類制作し、その中から好きなタイプの手帳を選ぶことができるようにしている。第四に、大学の情報だけでなく、大学周辺の多様な地域情報を調べて掲載することで、生活に有用な情報を提供している。これはメンバーがテーマを決め、店舗にヒアリング調査を実施し、内容に反映した。第五に、手帳のタイトルも、インパクトのあるネーミングをゼミ生が考えて提示している。最終的に大学の学生助成金を獲得し、250部を制作した。制作費で足りない部分を販売分で補う形で、2015年10月から大学生協の協力を得て学内で販売を行っている。

本事業においては、学生の「自発性」をととても大切にしている。しかし、関係する「大人たち」が意見する場面が多々見られた。そこは私が盾となつて、彼らの「想い」が実現できるよう強く配慮した。その結果、完成した手帳を手にした学生の眼がとても「キラキラ」していたのを今でも忘れることができる。幸福というのは当事者がどう受け取るかが大切であり、その「想い」があつてこそ、手帳を使う人にも「幸福感」が伝わっているのだと考えている。

【明治大学】

就職活動手帳・キャリア手帳

— 就職活動・学生生活をサポートする

明大生の新たな必須アイテム

鈴木 義夫

● 明治大学就職キャリア支援事務局

1 就職活動手帳

「就職活動の全てを常に手元に」

明治大学では2013年から、10月に実施する就職進路ガイダンスにおいて出席者全員（対象である学部3年生および大学院1年生の9割以上が出席）に「就職活動手帳」を配付している。

これまでも、就職活動に必要な知識をまとめた「就職活動の手引き」を配付していたが、A4サイズと日々持ち歩くには大きく、自宅に置きっぱなしになっているなど有効利用されているとはいえない状況があった。

デジタル世代と呼ばれる最近の学生でも、就職活動の際は市販の手帳でスケジュールを管理していることが圧

倒的に多い。それなら手帳一冊に就職活動の全てが詰まっていたらいいのではないかと、「就職活動手帳」が誕生したのである。

常に携帯しやすいよう、サイズはA5とした。前半は、10月から翌々年3月に卒業するまでのスケジュールや企業情報などを記入するページで構成され、後半は、就職支援の担当職員が長い年月をかけてつくり上げてきた「就職活動の手引き」が、約100ページにわたって詰め込まれている。挿絵は卒業生がデザインするなど、あらゆる面で明治大学オリジナルの手帳となっている。

学生からは「電話やメールなどのちよつとしたマナーについて不安に感じた時も、手帳をチェックした。必要な情報が網羅されていて、知りたいことがすぐに確認できてとても便利だった」「企業説明会で心細い時にこの手帳を持っている人がいたので、同じ明大生と分かって話しかけることができた」などという声も聞かれ、非常に好評だ。

また、在学生は先輩たちが手帳を手にして就職活動に臨む様子を間近で見ている。自分も手帳を手にすることで、「私もしよいよ就活生か」と気持ちを切り替えるきつ

かけにもなっているようである。手帳目当てに就職進路ガイダンスに出席する学生も多く、出席率が5%上昇するといった思わぬ効果もあった。

2 キャリア手帳

「キャリアデザインを自ら描く手助けに」

「就職活動手帳」へつながる新たなツールとして「キャリア手帳」を作製し、2015年から学部2年生に「就職活動手帳」同様、配付している。

サイズはB6、

自分の好きなデザイン
の表紙にできる
ようクリアカバーとし、
普段の学生生活でも違和感なく持ち歩きできる
よう工夫をした。

前半部は、4月から「就職活動手帳」が配付される



「就職活動手帳」(上)と「キャリア手帳」(下)

翌年9月までのスケジュールページになっている。後半部は「自分を知る」「学生のうちになすべきこと」などといったテーマで、将来設計の意識付けをし、充実した学生生活を送るためのヒントとなる情報が約50ページにわたって掲載されている。

学生からは「日々の予定を書き込んで計画的に過ごすようになった」「就職活動や将来の進路について不安なことがあると、まずキャリア手帳を開いている」といった、うれしい声が寄せられている。

3 2種類の手帳による就職キャリア支援

「学生と我々をつなぐ貴重なツール」

明治大学は1学年約8000人が在籍しており、各種就職キャリア支援行事や個別相談に力を入れているとはいえ、全ての学生と接点を持つことは難しい。そうしたなかで、この2種類の手帳は、多くの学生に我々の想いを伝えることができる貴重なツールともいえる。今後も内容の見直しや利用促進に取り組み、より多くの学生に手帳を活用してもらいたい。そして、充実した学生生活を送り、納得した進路選択によって、卒業後も力強く「前へ！」歩み続けてほしいと願っている。

「早稲田大学」

大学生活4年間を通して 成長していくためのツール

～CAMPUS HANDBOOK～

関口 八州男 ● 早稲田大学 学生部学生生活課長

各大学は、新入生にいち早く大学を知ってもらい、健全な学生生活を送れるよう、工夫を凝らして、あの手この手でさまざまな冊子・出版物を配付している。それは、情報化社会が進み、多くの若者がスマートフォンを当然のように持っている状況の中、外部から見ると効率的な方法には見えないかもしれない。しかしながら、大学は学生に冊子・出版物を利用してもらうことにより、大学のアイデンティティを感じてもらいたいと考えている。



早稲田カラーのえんじ色
を基調とした表紙カバー

特に手帳は、大学生活において、自ら予定を組まなければならないことが多いため、必需品といえよう。

これまで、本学は、毎年、全学生にB4サイズの冊子「学生の手帖」を配付し、近年は、B6サイズの「CAMPUS DIARY」に形を変え、配付していた。しかしながら、残念なことに、学生の多くはそれを利用していなかった。

原因を探ると、学生の興味・関心を喚起するようなデザインではなく、また、掲載する情報量が多過ぎるために、伝えたい有用な情報が埋もれている状況であることが分かった。さらに、毎年、全学生に配付することの有効性にも疑問を持たざるを得ず、改善の余地が多くあった。

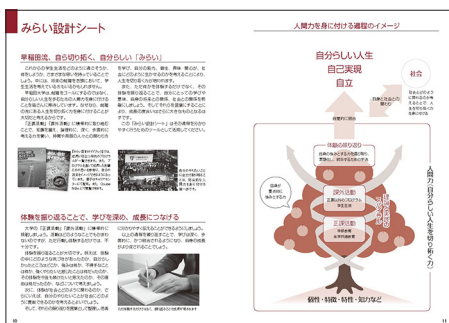
そこで、2013年度版の作製過程において、当時の学生部長を中心に検討した結果、これまでの方針を大きく改め、記事部分をカラー化し、写真などのビジュアルを多用するとともに、カレンダーを4年分掲載することにより、入学から卒業

2016年度	2018年度
1月 1日(水) 入学式・開学式 2月 1日(木) 入学式・開学式 3月 1日(金) 入学式・開学式 4月 1日(土) 入学式・開学式 5月 1日(日) 入学式・開学式 6月 1日(月) 入学式・開学式 7月 1日(火) 入学式・開学式 8月 1日(水) 入学式・開学式 9月 1日(木) 入学式・開学式 10月 1日(金) 入学式・開学式 11月 1日(土) 入学式・開学式 12月 1日(日) 入学式・開学式	1月 1日(水) 入学式・開学式 2月 1日(木) 入学式・開学式 3月 1日(金) 入学式・開学式 4月 1日(土) 入学式・開学式 5月 1日(日) 入学式・開学式 6月 1日(月) 入学式・開学式 7月 1日(火) 入学式・開学式 8月 1日(水) 入学式・開学式 9月 1日(木) 入学式・開学式 10月 1日(金) 入学式・開学式 11月 1日(土) 入学式・開学式 12月 1日(日) 入学式・開学式
2017年度	2019年度
1月 1日(水) 入学式・開学式 2月 1日(木) 入学式・開学式 3月 1日(金) 入学式・開学式 4月 1日(土) 入学式・開学式 5月 1日(日) 入学式・開学式 6月 1日(月) 入学式・開学式 7月 1日(火) 入学式・開学式 8月 1日(水) 入学式・開学式 9月 1日(木) 入学式・開学式 10月 1日(金) 入学式・開学式 11月 1日(土) 入学式・開学式 12月 1日(日) 入学式・開学式	1月 1日(水) 入学式・開学式 2月 1日(木) 入学式・開学式 3月 1日(金) 入学式・開学式 4月 1日(土) 入学式・開学式 5月 1日(日) 入学式・開学式 6月 1日(月) 入学式・開学式 7月 1日(火) 入学式・開学式 8月 1日(水) 入学式・開学式 9月 1日(木) 入学式・開学式 10月 1日(金) 入学式・開学式 11月 1日(土) 入学式・開学式 12月 1日(日) 入学式・開学式

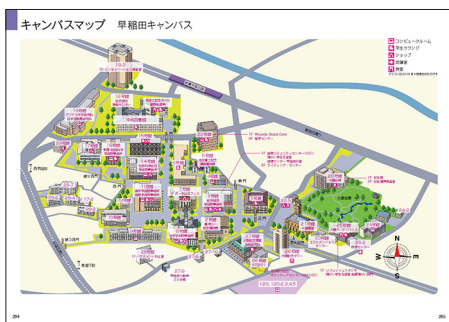
4年分の「カレンダー」
「時間割表」も4年分掲載

まで使用できる手帳に改め、新入生の上に配付するように変更した。

これに伴い、本学学生部キャリアセンターでは、学生のキャリア支援として「学内の成長の場所」を学生に案内していることもあり、キャリアセンターと相談の上、年次ごとに目標や計画、反省を書き込める「みらい設計シート」を掲載したことも大きな特徴である。また、オリジナルイラストのキャンパスマップも掲載し、B6サイズの「CAMPUS HANDBOOK」として生まれ変わった。



正課・課外活動での体験や学びから、人生を切り開く力を身に付ける「みらい設計シート」



各キャンパスにある建物の位置、コンピュータールーム、ショップなどを分かりやすく表示

リニューアル後、今年で4年目を迎えるが、学生の評判も上々であり、使いこなした手帳を持っている学生をキャンパス内で数多く見かける。今年実施した「学生生活調査」において、新入生の約半数は積極的に「CAMPUS HANDBOOK」を利用しており、4人に1人の学生は、毎日使用していることが分かった。理想を言えば、全ての学生に利用してもらいたいが、以前の利用状況に比べれば格段の向上と思われる。学生の意見として、「4年分のスケジュール帳は利便性が高く、えんじ色のカバーが早稲田大学に在学している誇りを持てるので、とてもうれしい」というものや、「キャンパスマップがイラストで分かりやすく、キャンパス内の建物を探す場合に便利である」というものが多かった。本来は新入生の上に配付されるが、教職員の評判も上々であり、学内の組織・施設がコンパクトに掲載され、学生生活に関する規程等も載っており、とても便利だとの評価を得ている。

今後、改善を加え、より多くの学生が「CAMPUS HANDBOOK」を利用し、早大生としてのアイデンティティを感得することを切に願っている。